

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 12 月 2 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300173
法人名	有限会社 すりい
事業所名	グループホーム ふれあい館
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野3486-6 (電話) 099-482-5333
自己評価作成日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 「ゆったりと さりげなく 住み慣れた地域の中で あなたが あなたらしく」の基本理念のもと、「同じ空間で過ごす家族の一員」としての意識を持ち日々の生活支援を行っています。

「特別な事」はありませんが、ひとりひとり応じて、一緒に過ごす時間を大切にして「笑って」「怒って」「泣いて」・・・。当たり前の生活(自分の「家」ではないけれど「家」と感じて最期まですごせるように)を支援しています。

* 職員は各自が、「信頼」「協力」「理解」を心掛けて、日々の支援に努めています。

* コロナが5類へ移行になったことで、地域との交流の機会が再開されました。今後、地域に対して、発信源としての役割を活かせるように努めていきます。(小学校との交流を再開することができました。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平成16年に建てられ、周囲にはJAの直営市場、家畜市場、自動車販売店、特別養護老人ホーム等があり、畑作・畜産の盛んな自然豊かな地域である。利用者は近隣の散歩や希望する外出先へ出かけ、地域住民からは農作物を頂き、ホームの菜園では野菜の他に枇杷・ブルーベリー・ゆず・八朔等を育てている。利用者は畑やプランターの水やりをしたり植えてほしい作物の希望を伝えたり、四季を感じながらゆったりと過ごしている。

管理者は日頃から職員の相談・報告等に耳を傾け、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。職員間では意見を言い合って話し合う場を設け、「自分だったらどう受け止めるか」を重視したケアの実現に向けて取り組んでいる。定年制のない働きやすい職場環境作りにも努めており、職員の定着率も高い。理念に沿って家庭的な雰囲気を大事にしながら、利用者のペースに合わせた支援に努めている。自宅や子供宅への外泊、ドライブ、外食、散歩など、利用者の思いに寄り添い、可能な限り希望に沿って自由に外出できるように支援し、気分のリフレッシュを図っている。

ホームでは看取りを実施しており、職員は研修や看取り終了後の振り返りを通して、家族と共に可能な限りホームで最期まで過ごさせてあげたいという思いで接し、家族も最期までホームで過ごさせてあげたいという思いで、チームケアでの支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営(1F 2F共通)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア内の数か所に提示し、視覚にて確認・意識して実践できるようにしています。また、施設内研修の際、振り返り・再認識等も行っています	住み慣れた地域の中で、利用者のペースで本人らしく過ごせる支援を目指した理念をホール・事務室・廊下等の目に付きやすい場所に掲示して、職員の意識付けを図っている。職員はケアの対応が理念に沿っているか確認しながら支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが第5類へ移行したこともあり、地域との繋がりを再開することができるように努めています。	自治会には加入していない。近隣の散歩や近くのキャベツ畑へ出かけた際には地域住民と挨拶を交わし、野菜等をいただくなど地域との良好な関係が構築されている。近くの小学校の運動会に職員が来賓で出席したり、認知症サポーターキッズで小学生の授業の一環として取り組むなど、触れ合いや交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の行事・心配事相談や認知症カフェ等への参加・協力を行い、認知症への理解や共に活動できるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面会議が続いていましたが、対面会議を再開しました。率直な意見交換を行い、施設の運営に生かすことができるように努め、また、欠席者に対して、議事録を郵送し、情報の共有を行っています。	令和5年4月から対面での会議が再開され、民生委員・住民代表・家族代表・市役所支所や社協の職員等が出席している。近くに居住する家族が少なくなってきたため家族代表に出席依頼しており、防災訓練と一緒に開催したり、ホームの現状・行事・研修・ヒヤリハット等について報告・検討してサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、日頃より連携を取っています。支援についての相談・助言を頂き、協力関係を維持し継続できています。	市の担当者とは日頃から電話・メール・窓口を通して、利用者に関することや運営・各種制度手続きの相談等を行い、助言や指導を貰っている。社協の日常生活自立支援事業・2か月毎の心配事相談・生活保護受給者の処遇に関する連携・地域包括支援センター主催の認知症カフェへの参加・市主催の研修会への参加等を通して、お互いの協力関係を築けるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに「身体拘束適正化委員会」を開催しています。また、施設内においても研修を行い、職員間で見逃すことなく注意できるように努めています。	「身体拘束防止マニュアル」「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束適正化検討委員会は開催前に職員から意見を貰って3か月毎に開催し、日頃のケアの中での言葉かけや身体拘束について検討を行っている。職員間では申し送り等で情報共有し、年1回は研修も行っており、日中は施錠せずに利用者の散歩に同行して気持ちの安定を図り、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、意識を持つようにしている。また、職員間においても、見逃すことなく注意できるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、専門性が高い為、一部の職員（ケアマネ・主任等）にとどまっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談時・入所時に説明を行っている。また、内容に変更・追加等が生じた場合は、その都度、口頭及び文書にて説明を行い、同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話、メール等にて、家族が意見・要望を直接、職員へ伝えることができるように機会を設け、その意見をケアに繋がるように努めています。	利用者は思いや要望をほぼ伝えることができ、日頃の会話や表情等からも把握に努めている。家族とは電話・メール・ライン・利用料の支払い・毎月の近況報告に写真を添えるなど関わりを密に図り、利用者毎にアルバムを作成して退去時や家族の面会時に見て貰っている。面会ではキーパーソンだけでなく子や孫等の意見も聞ける機会となっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアに関する意見・要望等を職員が自由に発言し、提案・実践できる雰囲気作りに努めています。	管理者は日頃から職員の相談・報告等に耳を傾け、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。職員との随時面談や職員の家族との面談も実施することがあり、「自分だったらどう受け止めるか」を重視した働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。希望休取得や研修会への参加等にも可能な限り対応できるように支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望においては、施設の運営やケアに支障がないように環境・条件整備等に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「自分にあったケア」を職員一人一人が行うことができるようにチームで育成することに努めています。と同時に、研修等への参加も支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会場・対面での研修の場も増えた為、研修・交流の場への参加を支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援(1F 2F 共通)					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面談時より、本人が安心して、話すことができるように空間・環境・雰囲気作りに心掛け、利用開始後の良好な関係作りに繋がるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面談時より、家族が安心して、話すことができるように空間・環境・雰囲気作りに心掛け、利用開始後の良好な関係作りに繋がるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面談時に、双方の話を聴きながら「ニーズの優先」を判断し、検討を行っています。また、必要に応じて、他のサービスについても説明・紹介等を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「同じ空間で過ごす家族の一員」としての意識を持ちながら、日々のケアに努めています。何気ない会話の中でそれぞれの関係性が生まれています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出、また、居室で家族とともに過ごす時間等、本人と家族の絆を大切にしています また、Keyperson以外との繋がりも支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会等困難な状況がありましたが、5類に移行したことにより、友人・知人等の関係が再開しています。	入居時に利用者や家族の希望等を聞き取り、生活の状況も考慮して、面会は居室で自由に実施している。自宅や子供宅への外泊・墓参り・ドライブ・行きつけの美容院・電話や手紙の取り次ぎ・家族から宅配物が届いた時に利用者が受け取った写真をラインで送るなど、本人を取り巻く馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各フロアにおいて、利用者同士がそれぞれ「馴染みの関係」を作り、お互いに声を掛け合い、気遣い関わり合う関係が広がっています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や看取り等で退所（終了）の場合も必要に応じて、御家族の相談や支援等を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント(1F 2F 共通)					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとり、症状の進行や高齢化・状態の変化がある為、本人の行動・状況に合わせた対応に努めています。	利用者の思いや意向は日頃の会話や表情等を通して把握し、うまく伝えられない利用者の場合は、家族からの情報も参考にして推測し、本人の言葉で表現するように配慮している。家族には毎月のお便り・電話・メール等を通して意向や意見を聞き、楽しみごとにも配慮した支援を実施して、申し送りやミーティング等で職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活情報、御家族の情報等、関係者からの情報等を収集して「本人の生活歴」に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日・その時、本人が「何を望んでいるのか？」を日常の関り・生活の中で探り、把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状態・心身の状況等を勘案して「本人らしく」生活できるように本人・家族等から意見（電話・メール等も含めて）を聞き「ケアプラン（計画書）」を作成しています。	家族に対しては予め電話することをメールで知らせてから電話し、意見等を聞き取るようにしている。介護計画は家族の面会時に説明して確認し、同意を得ている。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、サービス担当者会議は担当医師から事前に意見等を貰って訪問診療に併せて開催し、本人の現在の状態に応じた計画の見直しや修正等を行い介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の様子は、生活記録に記入しています。また、申し送り時に、情報の共有を行い、日々のケアに繋がるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生した「その時のニーズ」に対して、必要な支援を適切に行う事ができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の利用、自治会との関り等、必要に応じて支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは良好な関係を維持し、継続することができています。また、協力医療機関以外の医療機関との連携にも努めています。	利用者及び家族が希望する医療機関を受診する利用者、協力医療機関を受診する利用者がある。協力医療機関からの往診は月1回、その他に訪問看護や訪問歯科を利用することもでき、皮膚科等への専門診療科には職員が同行し、受診結果は家族にも伝えて共有を図っている。職員の中には看護師の有資格者もあり、夜間はケアマネジャーから主治医へ連絡体制が整備され、緊急時は全員が協力医療機関の医師に診て貰えるよう連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ報告や相談を行い助言を頂き、支援をしています また、協力医療機関の職員へ相談等行うことで、連携もあり、柔軟・適切な受診等医療面での支援を受けることができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、医療関係者と情報交換を行い早期の退院に繋げるように努めています。また、日頃から医療関係者との連携も図り、良好な関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が望まれた場合、関係機関と話し合いを行い、対応を検討し、方針を共有しながら「看取り」への支援を関係者の協力を頂き、全職員にて行っています。	「重度化した場合の対応に関わる指針」を整備し、「延命措置に関する意思確認書」で家族の意向を確認しながら、今年は2例の看取りを実施した。職員は研修や看取り終了後の振り返りを通して、可能な限りホームで最期まで支援したいという思いで接し、家族も最後までホームで過ごさせてあげたいという思いで、チームケアでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は「救命救急講習」を受けています。 また、利用者においては「緊急時の意思確認書」を頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の研修を行っています。 10月に消防署立ち合いで夜間を想定した「防災訓練」を行いました。その際、運営推進委員の協力も頂いています	火災・風水害・地震に対するマニュアルを整備し、非常災害対策計画を作成して年2回災害訓練を実施し、通報訓練や自主訓練も実施している。自動通報装置や連絡網・避難経路等の確認を行い、シュミレーションだけでなく利用者も一緒に訓練に参加し、日頃から防災への意識付けを図っている。備蓄は水・米・レトルト食品・缶詰等をユニット毎に約3日分準備し、ラジオ・懐中電灯・カセットコンロ・防災頭巾等も用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（1F）					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に応じた声掛けを行い、不快な思いも持つことがないように配慮した対応を行っています。	倫理・法令遵守や認知症に関する研修会では、利用者中心の介護について学び、居室への入室時はノックする、トイレ介助時には必ずドアを閉める等、プライバシーの確保に配慮した対応に心がけている。排泄の誘導では利用者の傍に近寄って声かけを行い、利用者の尊厳を損ねる言葉遣いや対応を行わないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの様子・表情・動作等を見ながら、声をかけて、本人の意思表示ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで過ごす事ができるように、声をかけて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪の際、好みを聞きながらカットしたり、本人にあった衣類で過ごす事ができるように努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作業をすることは難しくなりましたが、好みを聞いたり調理の際に季節感を感じてもらうように会話をして、食事の楽しみに繋がっています	利用者の状態に応じた食事形態や季節感等に配慮し、利用者の好みを反映させ菜園の野菜も活用して、献立や食事担当者も毎朝決めている。利用者は食材の下ごしらえ・テーブル拭き・下膳・干し柿や干大根作り・洗い物・包丁を使う等を手伝い、職員も一緒に同じ食事を摂っている。行事食・手作りおやつ等を工夫して作り、中庭では花火大会も実施した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの摂取量（小食等）や食事形態（一口大等）を把握にて、対応しています。また、好き嫌いも把握し、代替品での対応にも心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの口腔内の状況（義歯の有無・残歯等）の把握して、本人に応じた支援・ケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンや使用している介護用品を把握して、トイレ誘導・交換等、本人に応じて支援を行っています。（日中・夜間ともに）	利用者の身体状況や意向等の把握に努め、排泄チェック表の活用や見守り・声かけで個々のリズムを把握して、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。ポータブルトイレ・リハビリパンツ等を利用したり利用者の状態に合わせた介護用品を選択し、水分・牛乳・乳製品の摂取や運動等により便秘対策も行いながら、排泄の自立が図れるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりの排泄パターンを把握して、便秘薬に頼らず、食事等工夫をしながら便秘への解消に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めていません。本人の状況に合わせながら、入浴支援を行っています。	利用者の希望や体調に合わせて週2～3回、入浴日や時間は決めずに入浴できるようにしている。最初の声かけで気分が乗らずにためらう場合は、本人の気持ちを大切に柔軟に対応している。入浴剤は使用せず、入浴後は保湿や水分補給を行って、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設定していません。本人の生活パターンに応じた睡眠ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬を確実に服用することができるようにチェックシートを利用しながら対応しています。また、薬の内容についても理解することに努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりにあった「できること」に対して声を掛けて一緒に時間を過ごしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが第5類へ移行したことで少しづつ、家族の希望や同行で外出を再開しています。本人の状態で外出等が困難になりつつあることも否めません。	日頃から利用者の外出に対する意向の把握に努め、車椅子対応の車を家族に貸し出すなど家族の協力も貰えるように支援している。自宅や子供宅への外泊・病院受診後の家族との外食・ドライブ・ホーム周辺の散歩等、行きたい場所への個別支援も含め利用者の思いに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている利用者はいませんが、要望等があれば、対応できるように支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月の家族への手紙（コメント）に写真等を添えて、日常の生活を伝えています。御家族からの電話においても支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して、不快感を持つことがないように配慮しています。また、季節感を感じることができるように、壁面や季節の草花等を飾っています。	ホーム周辺は畑や茶畑に囲まれており、ホールの窓からは広々とした風景を眺めることができる。ホールの1階には犬が出入りし、2階の天窓からは光が差し込んで明るく、1階のウッドデッキや2階のベランダでは外気浴を楽しむことができる。対面キッチンからは調理の音や匂いが伝わり、壁には行事の飾り付け・カレンダー・塗り絵等が飾られ、時計・生花・植物等も置かれて、生活感や季節感を取り入れ、平穩に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりが、自由に好きな場所で過ごす事ができるように支援しています。また、気の合った同士で過ごす事もできるように工夫しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個室において、好みの装飾（写真・絵等）ができるように支援しています。	居室はフローリングで腰高窓があり明るく、電動ベッド・エアコン・吊り棚・たんす等が備えられている。危険防止のため、窓は二重ロックと開閉制限が施され、利用者は使い慣れた布団・寝具・タンス・ラジオ・仏壇・遺影・写真・イス等を自由に持ち込み、自分の結婚写真を飾っている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等、プレートで示し、目的の場所に行くことができるように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない